

え ど じだい
むかしむかしの江戸時代。

あ わ くに ひがいの ところ うめやま も え も ん そめものや おとこ
阿波の国の日開野という所で、梅山茂右衛門という染物屋の男が

いっぴき で あ
一匹のたぬきに出会いました。

こ も え も ん
子どもたちにいじめられていたたぬきを茂右衛門は

おも たす
かわいそうに思い、助けてやります。

おん が え も え も ん みせ はい
その恩返しをしようとたぬきは茂右衛門の店に入り、

じんつうりき つか だいはんじょう
神通力を使って大繁盛させました。

な ま え きんちょう
たぬきの名前は金長といたしました。



きんちょう じんつうりき くらい も
金長は神通力はありましたが、位を持っていませんでした。

しゅぎょう くらい え ひがいの はな
そこで修行をして位を得ようと日開野を離れ、

つ だ そうだいしょう ろく え も ん で し い
津田のためきの総大将・六右衛門に弟子入りします。

きんちょう たいへんゆうしゅう ろく え も ん き い
金長が大変優秀なので、六右衛門は気に入りました。

むすめ むこようし つ だ の こ い
「娘の婿養子になって津田に残れ」と言って

きんちょう じぶん あと つ
金長に自分の跡を継がせようとしています。

ひがいの もと きんちょう
しかし、日開野に戻るつもりでいた金長は

えんだん ことわ
縁談を断りました。



おこ るく え も ん きんちょう やみ う
怒った六右衛門は金長に闇討ちをしかけ、

たか きんちょう いのち お
鷹というたぬきが金長をかばって命を落としてしまいます。

に きんちょう たか かたき う
逃げのびた金長は、鷹の仇を討つために

ひがいの なかま あつ るく え も ん いくさ いど
日開野の仲間のたぬきを集め、六右衛門に戦を挑みました。

ひがいの つ だ はさ かつうらがわ かわら
日開野と津田に挟まれた勝浦川の河原に

そうほう あ ひき しゅうけつ い たたか
双方合わせて1200匹のたぬきが集結したと言われるこの戦いは、

あ わ たぬきがっせん よ おおいくさ
のちに「阿波狸合戦」と呼ばれる大戦となりました。



げきせん みつか みばん つづ きんちょう ろく え も ん たお しょうり
激戦は3日3晩続き、金長が六右衛門を倒して勝利しますが、

きんちょう ふか で お
金長も深手を負ってしまいます。

ちから ふ しぼ も え も ん もと もど きんちょう
力を振り絞って茂右衛門の元へ戻った金長は、

し ご うめやまけ まも やくそく いき ひ と
死後も梅山家を護ることを約束して息を引き取りました。

も え も ん きょうと い きんちょう ねんがん しょういち
茂右衛門は京都に行って金長の念願だった「正一位」をもらい、

やしき きんちょう しょういちきんちょうだいみょうじん
屋敷で金長を「正一位金長大明神」としてまつったとのこと。

いま とくしまけん こまつしまし ひのみねさん
今も徳島県小松島市の日峰山のふもとに

きんちょう じんじゃ
金長の神社があります。

